



新任の先生からのメッセージ

英語・理数教育講座 加藤 慎一

はじめまして。令和2年7月1日付で教育文化学部に着任いたしました加藤慎一と申します。所属は、英語・理数教育講座の理数教育コースです。専門は、数学教育学です。

私は、これまで、小・中・高等学校、特別支援学校（聴覚障害）での授業実践をふまえながら、小・中・高等学校における数学的なプロセスを重視した算数・数学の教材と授業デザインに関する研究を行ってきています。特に、関数の学習指導に焦点をあてて研究をすすめてきています。関数の学習指導では、学年が上がるにつれて、（児童生徒が形式的な処理をできるようになることも大切ですが）形式的な処理に焦点があてられ、児童生徒が何のために何をしているかを実感できずに授業が展開されてしまっていることが少なくありません。この課題を解決するためには、児童生徒が問題の置かれている文脈や状況を数学と結び付けて、関数的な見方・考え方を生かした問題発見・解決するプロセスを具現化することが必要かつ重要です。そのためには、どのような教材がよいか、そしてどのように授業を構想し、展開することがよいかを検討してきています。そのなかで、効果的にICTを活用することについても検討してきています。

学生の皆さん、これからの時代を担う児童生徒の資質・能力をはぐくむために、児童生徒一人一人の学力・学習状況に応じた算数・数学の教材について、問題発見・解決のプロセスについて、ともに考えていきましょう。

最後になりますが、生まれ育った東北の地で、先生方や附属学校をはじめ秋田県の小・中・高等学校、特別支援学校の先生方、地域の皆様にご指導、お力添えを賜りながら秋田県の教育を継承しそのさらなる発展に貢献できますよう精進して参ります。特に、これからの教育を担う学生さんとともに学び合い、秋田県の算数・数学教育のさらなる発展に貢献できますよう精一杯努めて参りたいと存じます。微力ではありますが、教育・研究に全力を尽くして参りますので、ご指導ご鞭撻のほど、よろしくごお願い申し上げます。



学生生活の過ごし方



図 1 角館にあるお店 (秋田初のプリン専門店)

みなさま、こんにちは。私は秋田大学教育文化学部地域文化学科地域社会コース 2 年次所属の高橋と申します。今回は学生協議会の一員として、「みなおと」に寄贈させていただきます。

世界的に大流行となった COVID-19 感染防止の観点から、本学では遠隔授業が実施されています。当初私自身も初めての体験で不安もありましたが、秋田大学の教職員のみなさまのご尽力もあって、学びを止めることなく学生生活を送らせていただいています。感謝申し上げます。

秋田県では緊急事態宣言解除後、そして外出自粛期間が終了した後、落ち込んだ経済を再び盛り上げるため、県内における観光などは感染防止対策をした上で、促進されるようになりました。そこで私は今まで訪れたことのない地域を観光してみようと考え、仙北市角館を探訪しました。私は秋田県出身ではありますが、角館を観光したことはありませんでした。普段の角館はアジア圏をはじめ外国人観光客が大勢訪れ、賑わっているとい

地域社会コース 2 年次 高橋 元気

う印象で、秋田県の観光資源の 1 つであると考えていました。実際に角館に行ってみると、入国制限の影響か外国人観光客はほぼ皆無という状態で、閑散とした雰囲気でした。角館といえば武家屋敷が有名ではありますが、それらが立ち並ぶ武家屋敷通りに人の姿は多く見られませんでした。そのため、ゆっくりのんびりと歴史的な街並みが残る角館の文化と食べ物を堪能し、心の底から楽しめました。角館はいいところでした。

私の所属は地域文化学科ですから、授業でも地域について考えることはたくさんあります。特に私の関心は“地域 (特に秋田) をどうやったら盛り上げることができるか”です。現段階の学びで分かったことは、住民が地域の魅力について理解することが重要であるということです。地域住民が地域のよさを知らないとい何も始まりません。「ここさはなもねえ (この地域には何もない)」と吐き捨てるのではなく、それを見つけ、共有し、発信していくことが大事なのではないでしょうか。私の角館観光も地域を知るとい意味において、つまり地域を盛り上げるための第一歩として有意義な経験だったと思います。

長々と綴ってしまいましたが、そろそろペンを置かなければなりません。要約すると、「秋田を観光してみたいはいかがですか」ということです。その際は感染防止・熱中症対策をしましょう。最後まで読んでいただきありがとうございます。



図 2 武家屋敷通り

with コロナでの学生生活の過ごし方 ～zoom ランチタイム～

教育実践コース 3 年次 松井 佑実

「これで授業は終わりです。Zoom を退出してください。」

これが慌ただしいお昼の始まりのゴングです。午前の講義が終わり午後の講義が始まるまでは、50分しかありません。コロナでオンライン授業になり、短時間で昼ご飯を自分で作らなければなりません。自粛前に何気なく食べていた学食のありがたさを改めて感じながらキッチンへ向かいます。冷蔵庫を見てぱっと作るものを決め、一人暮らしで磨いてきた料理の腕をふるいます。よく使うのはすぐ火の通る豚肉です。簡単に調理でき、レシピの幅も広いので重宝しています。回鍋肉や生姜焼き、アスパラの豚肉巻き、最近は油淋鶏ならぬ油淋豚にも挑戦しました。

よく母や友達に「そんなに忙しいのなら、朝とか夜にまとめて作ってレンジでチンしたらいいじゃない。」と言われます。確かに、そっちの方が便利です。あまりに忙しい日はそのようにしますが、基本作るようにしています。なぜなら、ずっとパソコンの前に座っているため、息抜きが欲しいからです。特に PowerPoint を使う授業などでは、文

字が多く、目も心も消耗が激しいです。そんな時に、冷蔵庫から残り物を出してレンジでチンするだけでは、毎日がつまらなくなってしまう。料理を作ることは、料理好きの私にとって最高のリフレッシュになります。

手早く作り終わった後、友達と zoom をつないでランチタイムを過ごします。大学がオンライン授業になってなかなか会えない友達と、画面越しにたわいもない話をする時間が私は一番好きです。「今日は何を作ったの?」「そっちのお昼ご飯もおいしそう」なんて言いながら見せ合うと、料理を頑張ったかいがあるなと思えて来ます。

この「zoom ランチ」をするまでは、一人で寂しくご飯を食べ、ただ淡々と一日をこなす味気のない日々でしたが、始めてからはお昼の時間が待ち遠しくてしかたありません。たった10分でも、みんなの顔が見れることがこんなに楽しいなんてと自分でも驚いています。

それでも、みんなと直接会って食べていた毎日が恋しいです。みんなにまた会えることを楽しみにしています。

秋田大学大学院

教育学研究科学生募集

今年度受験を計画している方 進路を検討中の方

令和
3年度

大学院説明の動画をホームページでご覧いただけます

令和2年8月上旬より、本研究科ホームページにて大学院説明の動画を公開します。進学をお考えの方、本研究科での学びに興味のある方はぜひご覧ください。

- 研究科の紹介
- 各専攻・コースの説明
- 入学試験について

https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_admission.html

募集人数	専攻・コース	現職教員	学部卒
■ 修士課程 心理教育実践専攻	心理教育実践コース	6名	-
	学校マネジメントコース	-	-
■ 教職大学院 (専門職学位課程) 教職実践専攻	カリキュラム・授業開発コース	10名程度	10名程度
	発達教育・特別支援教育コース	-	-

令和3年度入試日程

	第 I 期	第 II 期
出願期間	令和2年8/26(水)～9/2(水)	令和2年12/4(金)～12/10(木) 学校マネジメントコースは12/15(火)まで
試験日	令和2年9/26(土)	令和2年12/20(日)
合格発表	令和2年10/13(火) (予定)	令和3年1/19(火) (予定)

※新型コロナウイルス感染拡大の状況によっては、入試日程や選抜方法の急な変更もあり得ます。その場合は、本研究科のホームページで周知いたします。

お問い合わせ
資料請求

入試課教育文化担当 TEL : 018-889-2507
E-mail: nyushi@jimu.akita-u.ac.jp
https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_admission.html

- 秋田大学大学院教育学研究科の学生募集案内です。
- 公認心理師、臨床心理士の資格取得を目指す人
- 確かな教育実践力を有する教師を目指す人
- 教育学や心理学をもっと理論的、実践的に学んでみたい人
- 秋田の高い学力を生みだした教育、学校、教師に興味のある人
- 秋田の人、暮らし、地域を支える心理的支援に興味のある人
- 興味のある人もない人も、ぜひ大学院説明の動画を見てください。

【研究紹介】

地方自治体のシティプロモーション



写真1 東北地域ブランド総選挙の表彰式の様子

私の専攻はマーケティングで、特にプロモーション（魅力の伝え方）について研究しています。例えば、どんなにいい商品を作っても、魅力の伝え方が下手だと売れません。逆に味がイマイチなのに、魅力の伝え方が上手でヒットした商品も多々あります。これがプロモーションの面白さであり、醍醐味です。以下、着任して1年目の研究教育活動について紹介したいと思います。

まず初めに、1年次生の必修科目である地域学基礎の活動の一環として昨年末に特許庁と東北経済産業局が主催した東北地域ブランド総選挙に、1年次生3名の学生と横手やきそば暖簾会理事長の三浦勝則さんとともに参加しました。この大会は、東北地域の大学から18チームが出場し、地場製品のPRを競う大会です。横手やきそばの関係者にインタビューを行い、その内容をインスタグラム（yokoteyakisoba0902）を活用して、約4か月間発信し続けました。さらに横手やきそば暖簾会が抱える課題を解決するためのビジネスプランを提案し、見事最優秀賞に輝くことができました。学生の頑張りによって各種メディアでこのPR活動が広く紹介され、横手やきそばの更なる認知度向上に貢献できたことは大変うれしいことでした。

次に、昨年末にプレゼミの3年次生を連れて宮城県登米市に伺いました。宮城県登米市はわずか8万人弱の街ですが、アジアでNo.1に輝いたPR動画の制作や市民向けシティプロモーション

地域社会・心理実践講座 益満 環
ンゼミの開講など、街を盛り上げる仕掛けづくりやプロモーションに大変長けている自治体です。この頑張りにより移住者の増加やふるさと納税の増額に成功しています。学生が登米市の担当職員にインタビューをしたり、自らサポーターとして自治体の売り込みを図る経験はこれまで行ったことがなく、悪戦苦闘しながらもプロモーションのノウハウについて習得していました。こういったフィールドワークが他の研究室でも積極的に行われている背景には、本学科において1年次からフィールドワークを重視した授業が充実していることが上げられます。1

年次から30を超える地元企業や自治体の支援の下、学生と教員が一緒になって課題解決に取り組むことで、発想力や創造力に磨きがかかり、人間力が醸成されます。また、授業で理論を学びながら、フィールドワークで社会に求められる実践力が身に付く数々の授業は、学生たちにとってやりがいのある大変貴重な成長の場だと感じています。

最後に、今年度は、新しいプレゼミの学生7名とともに、秋田県大仙市の日本酒の魅力を発信します。大仙市は国内で有名な酒蔵を多数有しています。大曲の花火だけでなく、日本酒も美味しいことを国内外にアピールし、新型コロナウイルスの影響で売上げが減少している酒蔵を微力ながら応援できればと考えています。どうぞご期待ください。

写真2 宮城県登米市での実習



【研究紹介】

ドゥルーズと人間の哲学

国際文化講座 小倉 拓也

私はこれまで、二つの軸にそって哲学の研究をしてきました。ひとつが、現代フランス哲学の理論的研究、とりわけジル・ドゥルーズという哲学者の学説の研究です。もうひとつが、その成果を踏まえた、狂気、老い、障害、救済などに関する哲学的、人間科学的研究です。

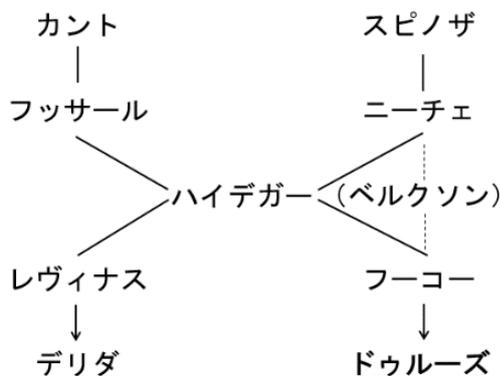
一般に、ドゥルーズ哲学は「非人間主義」と評価されますが、私はドゥルーズ哲学のなかに「人間的な」と言えるような契機を見だし、それらを前景化して理論化するという試みを行ってきました。具体的には、系統発生的に非人間主義として位置づけられるドゥルーズ哲学の個体発生の過程に着目し、全盛期の仕事の非人間主義の存在感によって見えにくくなっている、より長く一貫した人間の哲学の軌跡を特定し、前者を後者の文脈に積極的に従属させながら、その哲学全体の従来とは別様の体系化を試みました。

例えば、老いとは、感覚的に総合された世界がほどけていくこと——疲労——の不可逆的進行であり、しばしば老人の呆けとされるものは、それ自体が破綻的なものではなく、むしろそうしてほどけていく世界をいびつな仕方でも維持しようとする行為として理解することができます。また、例えば、自閉症などに見られる常同行動や反復は、転変する世界がもたらす強襲するような知覚を、その独特のリズムによって制御し、世界と強襲的でない関係を構築しようとする行為として理解することができます。こうした研究では、精神科医、心理士、教育学者らと共同研究を行い、論集を編むことができました。

現在は、ドゥルーズにおける人間の哲学の軌跡を追うなかで出会った、アンリ・マルディネという哲学者の芸術と狂気の哲学に関する基礎的な研究に取り組んでいます。主著の翻訳も刊行の予定です。また、同じくドゥルーズの人間の哲学から取り出すことができた、疲労、老い、消尽という否定的とも言える概念を用いて、可能性や希望が消えていく世界、あるいはそれらが消えてしまったあとの世界——私たちの世界——について、そしてそのような世界における生と死——私たちの生と死——について、哲学的に考えていこうと考えています。そして、ライフワークとなるはずの「湖の哲学」も、少しずつ……。

超越と人間の哲学

内在と非人間の哲学

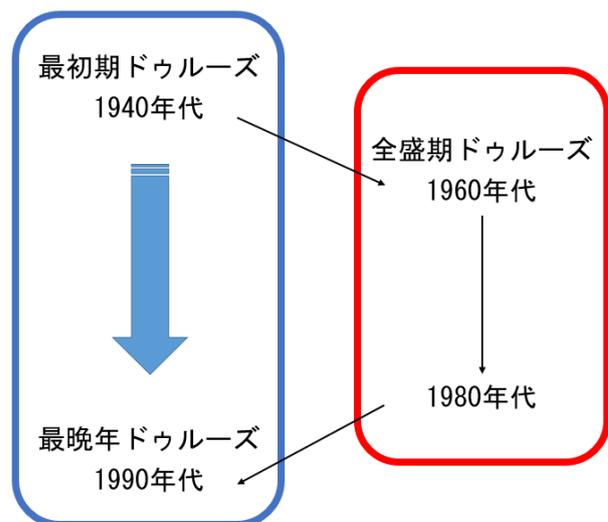


(ジョルジョ・アガンベンによる図式化を援用・改変)

ドゥルーズにおける人間の哲学の軌跡を追ってみると、従来はその敵と目されていた実存主義、精神分析、哲学的人間学などとの豊かな理論的交渉関係を見出すことができます。その関係に分け入っていくことによって、非人間主義からは取り出すことができない、他者への強い関心や、狂気や老いへの率直な恐怖、そしてそれらをめぐる豊かな概念群を取り出すことができました。そしてそれらの成果にもとづいて、狂気、老い、障害、救済などについての哲学を展開しました。

超越と人間の哲学

内在と非人間の哲学



新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組み

* 一部不明・不正確な箇所があります

【全国】

- 7/2：東京都新規感染者 107 名で 100 名超え。
- 7/9：東京都新規感染者 224 名で 200 名超え。
- 7/17：国土交通省の発表により、Go To トラベルキャンペーンから東京が対象外。
- 7/22：Go To トラベルキャンペーンスタート。
- 7/23：東京都新規感染者 366 名で 300 名超え
- 7/25：秋田市で新規感染者 1 名、102 日ぶり。26 日にも 1 名。累計 18 名へ。

【秋田大学】

- 7/13：学生の 1 都 3 県（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）への移動は学部長・研究科長の許可制。帰秋後、概ね 2 日から 5 日間の自宅待機後に秋田大学医学部附属病院にて PCR 検査を受診し、陰性と判明するまでは外出自粛。検査を受けたくない、受けられない場合は 2 週間の自宅待機。1 都 3 県以外へ移動する場合は学務担当へ届出。既に県外に移動し、帰秋する場合も同様。
 - 7/21：学生に健康観察・行動記録の要請。1 都 3 県への移動の自粛要請。1 都 3 県への移動は学部長・研究科長の許可制。大学への登校日の 2 週間前には秋田に入り健康観察及び行動記録。
 - 7/28：全ての都道府県への移動を許可制に変更。帰秋後 2 週間の自宅待機及び健康観察。
 - 7/29：教職員に対して用務での県外移動の自粛要請
- 【本学部・研究科】**
- 7/10 執行部会議、7/13 学部運営会議の Zoom 開催
 - 7/16：教授会は書面審議
 - 7/28：ピアノ練習室の使用制限の一部緩和
 - 7/30：臨床心理相談室の対面でのクライアント受入再開決定

【附属学校園】

- 7/2：附属学校運営会議の Zoom 開催
- 7/30：幼児・児童・生徒の県外移動自粛要請。帰秋後 2 週間の登校園自粛。



新しい学部案内ができました

<https://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/pdf/magazin/2021gakubuannai.pdf>

発行 秋田大学教育文化学部／教育学研究科

〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町 1-1 TEL 018-889-2509 FAX 018-833-3049

教育文化学部・教育学研究科HP <http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/>

学部研究科通信「みなおと」バックナンバー⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_magazin.html

教職大学院通信「暁鐘の音(かねのね)」⇒http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/graduate/graduate_magazin.html

* 誌名「みなおと」の由来である秋田県女子師範学校校歌（1910 年制作）を聴くことができます。

http://www.akita-u.ac.jp/eduhuman/guide/gu_symbol.html をご覧ください。